

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

竹生島・びわ湖北部の 魅力発掘プロジェクト

竹生島タブノキ林の保全・再生事業推進協議会

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

・滋賀県長浜市は、平成22年に長浜市に6町が編入合併したことで12万人を超える市（県内3番目）となったが、平成30年3月末現在では11万8千人と人口減少少子高齢化の波が押し寄せている。採択団体である本協議会も高齢化が進んでおり、持続的に取り組みを進めていくためには次世代の担い手づくりが求められている。

・竹生島にカワウが大量に増え天然記念物である森林が枯れてしまったことから、平成22年に協議会を設立し、滋賀県と長浜市が関わって駆除やモニタリング、環境学習として植樹などに取り組んできた。補助金をベースとした取り組みであるため、経済的には持続可能ではない。

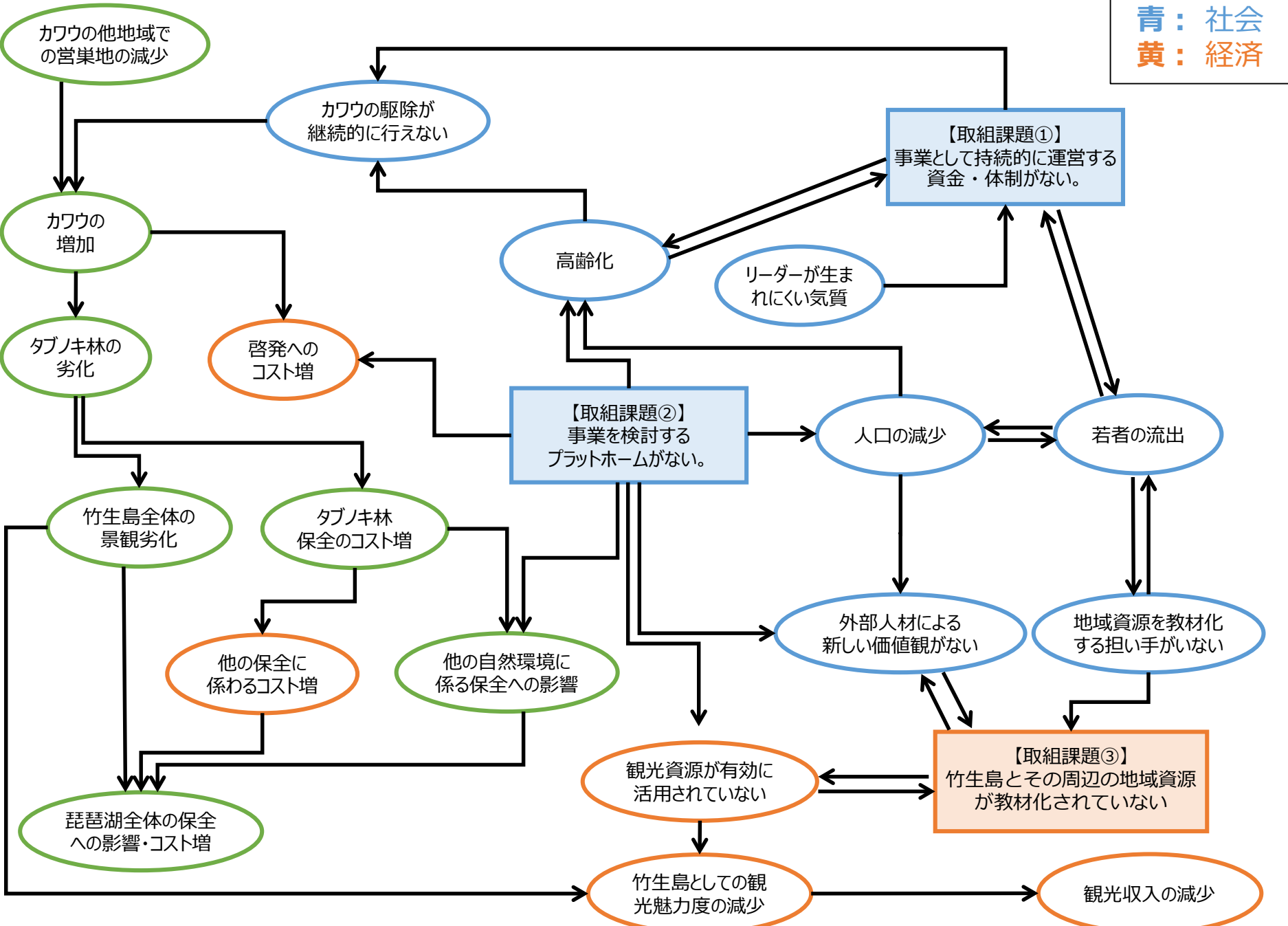
・長浜市内は、竹生島だけではなく黒壁スクエア、長浜城、余呉湖といった県内でも人気の観光資源があり、それらを活用した観光ツアーは地元業者が取り組み盛況である。しかし、「学び」「体験」「共感」という要素を含み、市域、県域の外部にある人の経済的な関与を創出するような地域資源を活かした魅力的なエクスカーションは少ない状況である。

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

- ① 事業として持続的に運営する資金・体制がない
- ② 事業を検討するプラットフォームがない。
- ③ 竹生島とその周辺の地域資源が教材化されていない

①-2 地域課題の整理（課題と課題の関係図） ※①-1を明示してください。

緑：環境
青：社会
黄：経済



② 事業の整理 (同時解決マップ)

最終目標

【解決した地域の状態】

- ・緑豊かな竹生島を維持する管理体制が構築できている。
- ・エクスカージョンの運用益で協議会運営資金を獲得しつつ、関係者の雇用にもつながっている。
- ・竹生島とその周辺地域における地域資源が発掘され、エクスカージョンの多様化が進んでいる。



この取組 (5年間) で何をを目指すか

- ・地域住民と外部人材で構成された新たな主体が協議会事務局の運営を行っている。

- ・竹生島とその周辺地域の教材化を活用したエクスカージョンで観光客や修学旅行・体験学習旅行等の受け入れが始まっている。

2か年の成果目標

- ・事業に興味のある長浜市外・滋賀県外の人材が何らかの形で関わっている。

- ・事業を検討するプラットフォーム会議を構築できている。

- ・地域資源の発掘が完了し、教材化ができている。

- ・協議会運営による利益の得られるエクスカージョンが1-2コース確立できている。



取組のアイデア

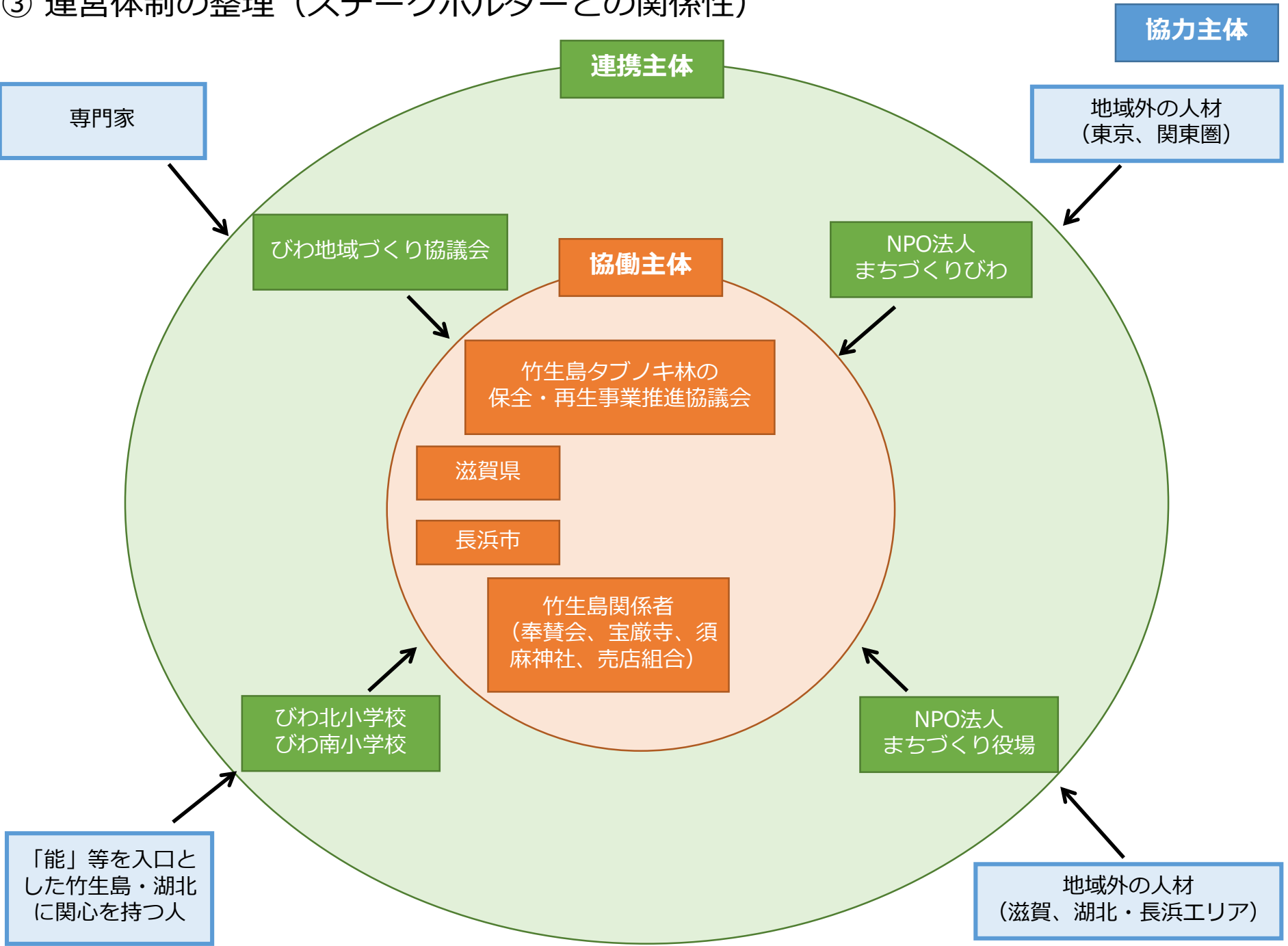
- ・「ここ滋賀」等を活用した長浜市の地域資源の魅力を伝えるワークショップを開催し、市外の人材が本事業に関われる素地を作る。

- ・事業参画の可能性がある団体等にヒアリングし、プラットフォーム会議への参画を促す。
- ・事業を検討するプラットフォーム会議を開催し、参加団体の事業参画意欲を高める。

- ・地域資源に精通した組織・団体等にヒアリングを行い、地域資源を発掘する。
- ・地域の団体や外部有識者、外部人材などとワークショップを開催し、地域資源の関係性を浮き彫りにする。

- ・協議会運営による利益の得られるエクスカージョンのパイロット版を実施する。実施結果を検証して、改良した内容のマニュアルをつくる。

③ 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業として持続的に運営する資金・体制がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここ滋賀」などを活用した長浜市の地域資源の魅力を伝えるワークショップを開催し、本事業に関心を持つ人材を発掘する。その中から、事業に関わる人 1 ～ 2 名発掘する。 ・発掘した人材を対象とした支援体制が長浜市内の他部局と検討が進んでいる。
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を検討するプラットフォームがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参画の可能性がある団体等にヒアリングし、プラットフォーム会議への参画を促し、複数の団体が参加している。 ・事業を検討するプラットフォーム会議を開催し、参加団体の事業参画意欲を高める。
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹生島とその周辺の地域資源が教材化されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での団体等へヒアリングを行い、地域資源の発掘を行い、それらを使って地域の団体や外部有識者、外部人材などを巻き込んだワークショップを開催し、地域資源の関係性を浮き彫りにする。 ・外部有識者による検討会を開催し、地域へのヒアリング等で得た情報の補完、取りまとめに向けた検討を行う。(⑥-1の資料で仮に11月に入れました。) ・協議会運営の運用益を目指したエクスカージョンのパイロット版を実施し、アンケート集計などから課題やニーズなどを明らかにする。その結果を検証して、マニュアルを作成する。

⑤ 本事業計画の見通し

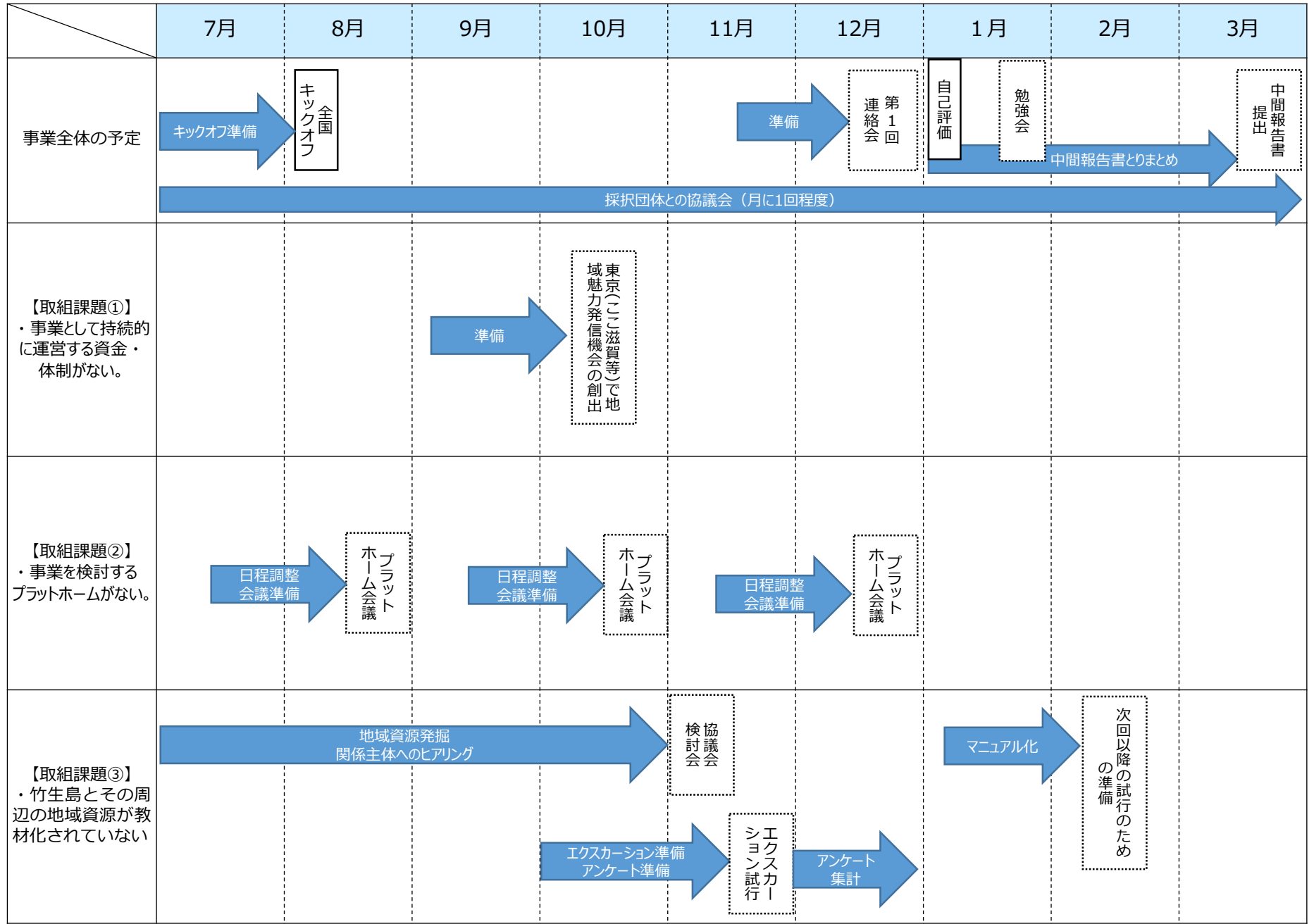
■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・ 事業として持続的に運営する資金・体制がない。	・ 事業に興味のある長浜市外の人材が何らかの形で関わっている。
【取組課題②】 ・ 事業を検討するプラットフォームがない。	・ エクスカーションの実施等の事業全体の運営について検討するプラットフォームが構築できており、取組課題①の解決に向けて検討が始まっている。
【取組課題③】 ・ 竹生島とその周辺の地域資源が教材化されていない。	・ 地域資源の教材化を通じたエクスカーションのコースが2コース程度確立できている。 ・ 外部有識者による検討会を開催し、ヒアリング等で得た情報の補完を行い、教材化の精度が高まっている。

■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか
<ul style="list-style-type: none">・ 長浜市民が、この取り組みを知ることによって竹生島やその周辺の地域資源を訪れる機会が増え、地域への愛着が高まる。・ 地域住民と外部人材で構成された新たな主体が協議会事務局の運営を行っている。・ 協議会事務局と市内の観光事業者の連携が始まり、エクスカーションの多様化が進んでいる。・ 竹生島とその周辺地域の教材化を活用したエクスカーションで観光客や修学旅行・体験学習旅行等の受け入れが始まっている。

⑥- 1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 本協議会は補助金をベースとした取り組みであるため、経済的に持続可能でないことが課題である。竹生島の森林保全を持続させるために新たな資金源の確保が急務である。
- ・ 本協議会の構成団体の多くは高齢者であり、今後の活動を担っていく若者世代の参画が必要である。
- ・ 「学び」「体験」「共感」という要素を含んだ魅力的な竹生島周辺に関わるエクスカーションは少ない。地域資源を掘り起こしを地道に行っていくことが必要である。

■ その他、留意事項などがあればお書きください

・